

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	尚綱学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ショウケイガクインダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ(海外)
	学部・研究科等名	総合人間科学部
	担当教職員名・役職	玉田 真紀(教授)、會澤 まりえ(教授)、東 義也(教授)、今井 誠二(準教授)、福井 真司(準教授)、サム・マーチー(講師)、中村 節子(進路就職課長)、岩崎 真弥(進路就職課)、里見 こずえ(進路就職課)
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	16
	受入企業等数	6
	受入企業等名	Holy Cross Catholic Primary School、Farhnora Retirement Village、Sun Shine Day Care、Life Line、Tafe Tropics Cafe、Tarzan Cafe
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ、5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ、9.その他
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	小学校、高齢者施設、NPO法人でのインターンシップ	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2・3年が選択可能なキャリア科目として設置している。早期に将来のキャリア形成に必要な課題と大学での学びの意義を自覚させる事が目的である。現地研修は団体でのボランティアワーク2日(小学校、高齢者施設)と個別企業やNPO等での就業体験が3日、計5日を設定している。個別研修の3日間は、接客、販売、福祉ケアなど通常業務の補佐的な就業体験を行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している。6.当該インターンシップは、選択科目として実施している。7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している。8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	全学科2年対象のキャリア教育の選択科目であり、3年でも選択可能としている。通年科目(前期15回授業、夏期研修11日、後期集中)であり、事前・事後の授業、夏期研修の全ての過程を修得することで2単位となる。海外滞在は夏期休暇中で11日間、インターンシップ研修はグループで2日間、個別で3日間を設定している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている。3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている。4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している。5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	1.語学レベルの確認(TOEIC)。2.研修先の歴史・文化・教育・自然の調査と発表。3.ボランティアワークの企画・実施準備。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている。3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている。4.その他
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	報告書と記録映像を作成し、全学教員と次年度学生、ならびに企画立案に協働して携わる国際交流のコーディネート企業にも報告書を配布している。
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	担当教員が現地引率し、研修期間中は毎日学生と面談し、相談に応じられる体制を作っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	前期15回の授業で実施。内容は、インターンシップ研修の目標と心構え、自己理解と志望動機の記述、教員と個別面談、社会の求めるマナー、英語レベル試験(TOEIC)、渡航の書類作成、受入先・ホームステイ先の説明、現地の歴史・文化・教育・自然等のレポートの作成と発表、ボランティアワークの企画・準備・リハーサル、インターンシップ研修想定英会話の練習、研修報告書の記述形式と提出方法について等。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	研修先の日報を元に報告原稿を作成し9月に提出。11月にインターンシップ報告冊子として発行している。さらに記録映像とスライドを作成し、海外インターンシップ報告会を学内公開形式で開催。各自が研修で得た課題や成長できた事を確認し、今後のキャリア形成や就職活動にどう生かすか、面談を通して助言する。また帰国後に英語レベル試験(TOEIC)を再度受け確認する。

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	現地研修には出発から帰国まで、教員1名、国際交流のコーディネーター企業職員1名が引率し、全ての課題に対応している。担当教員は毎日の研修記録に目を通しながら、学生の相談に応じている。団体で実施する2日間ボランティアワークは教職員も同行し、個別研修先には3日間に必ず巡回するようにしている。学生が研修中に課題があれば、すぐに電話で連絡、対応できるように、現地での体制を整えている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前授業の初回に志望動機を書かせ、個別面談で確認。事前授業で現地調査レポート等の提出と発表から学生の意識を確認。研修中は、引率教員が学生の取り組み姿勢と日々の研修記録内容より意識・行動の変容を確認。研修後は、報告書作成と報告会開催、模擬面接により、どう意識・行動が変容したかを評価。また社会人基礎力(3能力/12能力要素)のうち重要点はどこか。研修後に自己点検させ、報告書に書かせている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	現地研修期間11日、そのうちインターンシップ研修実施5日間。
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	夏期休暇中に、グループで小学校と高齢者施設でのボランティアワーク2日間、個別で企業やNPOでの研修3日間、計5日の研修を確保している。その他に現地において、研修準備に必要な語学レッスン5回も実施している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。7.その他
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	教員と国際交流のコーディネーター企業担当者が共にプログラムを企画し、現地コーディネーターとも協働して運営。終了後は共に課題を振り返り、次年度計画を組む。
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	教員と国際交流のコーディネーター企業担当者が協力して企画したプログラムの実施にあたり、事前・事後授業には企業担当者も適宜参加し指導する。現地の取り組みについて引率教員とコーディネーター企業担当者が視察し評価する。学生は日報を書き、引率教員がコメントを書き面談しながら、目標達成するための支援を行う。帰国後にアンケート調査も実施し、学生の評価を確認している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	以下のURLよりお進みいただき「インターンシップ詳細(シラバス)」(PDFファイル)にてご確認ください。 http://www.shokei.jp/career/information/detail.php?p=61
問い合わせ先	大学等名	尚綱学院大学
	担当部署名	進路就職課
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	中村 節子
	電話番号	022-381-3313
	メールアドレス	shushoku@shokei.ac.jp